

安全データシート

株式会社チップトップジャパン

発行日 :2024 年 1 月 9 日

チップトップハンドクリーナースーパー



1. 製品及び会社情報

製品名 : チップトップハンドクリーナースーパー

製品番号 : 593 0452 0000、593 0453 0000、593 0436 0002、593 0436 0004、593 0481 0000

用途 : 手洗い洗剤

製造販売元 : 株式会社チップトップジャパン

住所 : 〒452-0821 愛知県名古屋市西区上小田井 2 丁目 338

電話番号 : 052-502-3500

FAX 番号 : 052-502-3620

※本製品は REMA TIP TOP AG の指導・管理のもと、製造されている。

Responsible for the product : REMA TIP TOP AG Gruber Strasse 63, D-85586 Poing, Germany.

Tel +49 (0) 8121 / 707-0

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

- ・引火性液体 区分 3

健康に対する有害性

- ・急性毒性（経口） 区分 4
- ・皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分 2
- ・眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分 1 区分 2A
- ・呼吸器感作性 区分 1
- ・皮膚感作性 区分 1
- ・特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 2（消化器系）、区分 3（気道刺激性）
- ・誤えん有害性 区分 1

環境有害性

- ・水生環境有害性（急性） 区分 1、区分 2
- ・水生環境有害性（長期間） 区分 1、区分 2

GHS ラベル要素



注意喚起語

- ・危険

危険有害性情報

- ・飲み込むと有害
- ・皮膚刺激
- ・重篤な眼の損傷
- ・強い眼刺激
- ・吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ
- ・アレルギー皮膚反応を起こすおそれ
- ・臓器の障害のおそれ
- ・呼吸器への刺激のおそれ
- ・飲み込んで気道に侵入すると生命の危険のおそれ
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・水生生物に毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に毒性

他の危険有害性

- ・情報なし。

安全対策

- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
- ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
- ・容器および受器を接地すること。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・火災を発生しない工具を使用すること。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
- ・取扱後は手をよく洗うこと。

応急処置

- ・火災の場合、適切な消火方法を使用すること。
- ・皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
- ・吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

保管

- ・換気の良い冷所で保管すること。
- ・容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。

廃棄

- ・内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

- ・混合物

組成及び成分情報

化学名	CAS 番号	官報公示整理番号	濃度
木質	9004-34-6	11-(4)-249	<20%
ドデシルベンゼンスルホン酸 Na	25155-30-0	(3)-1884	<10%
オレンジ油	138-86-3	(3)-2245	<10%
ダイズ油脂肪酸アミド DEA	68603-38-3	(2)-2503	<5%
ラウレス硫酸 Na	9004-82-4	(7)-155	<5%
デセス-5	26183-52-8	(7)-97	<5%

4. 応急措置

吸入した場合

- ・気分が悪いときは、医師の診断手当を受けること
- ・症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

- ・多量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

- ・水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

- ・水で口をすすぎ、ただちに医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

- ・水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

- ・火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

- ・火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

特有の消火方法

- ・火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
- ・延焼のおそれのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物などの冷却をする。
- ・消火活動は風上から行う。
- ・火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
- ・危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

- ・消火作業の際は、適切な自給式呼吸器用保護具、服や皮膚を保護する保護服、(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に関する注意事項

- ・周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め、浄化の方法及び機材

- ・危険でなければ漏れを止める。
- ・取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。
- ・すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)
- ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。
- ・液体を凝固させる材質(砂、けいそう土など)を用いて、取り除く。
- ・十分に換気をすること。ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸い込まないこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

- ・包装していない製品を取り扱う際は、局所排気を備えた装置を使用しなければならない。
- ・ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸い込まないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。

接触回避

- ・高温物、酸化剤などから避けること。

衛生対策

- ・汚れて濡れた衣服は、直ちに脱ぐこと。皮膚用保護クリームによる、皮膚の保護、休憩前や終業後は、手と顔を念入りに洗うこと。必要であればシャワーを浴びること。

保管

技術的対策

- ・密封された容器に入れ十分な換気がされた冷暗場所に保管する。

混触禁止物質

- ・酸化剤等

容器包装材料

- ・破損や漏れのない密閉可能な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

- ・資料なし

設備対策

- ・取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
- ・高温下や、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。

保護具

- ・呼吸用保護具
- ・必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。

手の保護具

- ・溶媒耐性のある保護手袋を着用する。

目の保護具

- ・目に入るおそれのある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・必要に応じて保護衣、保護エプロンなどを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：ペースト状

色：薄黄色

臭い：フルーティ

沸点、初留点及び沸騰範囲：情報なし

可燃性：情報なし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：情報なし

引火点：情報なし

自然発火点：情報なし

分解温度：情報なし

pH：5.5-6.5

動粘性率：情報なし

溶解度：不溶解性

蒸気圧：24hPa

密度及び/又は相対密度：0.9g/cm³

相対ガス密度：情報なし

粒子特性：情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性

- ・通常の取扱い条件下では安定である。

危険有害反応可能性

- ・通常の取扱い条件下では危険有害反応を起こすことはない。

避けるべき条件

- ・発火の危険があるため加熱を避けること。

危険有害な分解生成物

- ・火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

11. 有害情報

成分の有害性情報

ドデシルベンゼンスルホン酸 Na

- ・急性毒性（経口） ラット LD₅₀=438 mg/kg
- ・皮膚腐食性及び皮膚刺激性

RTECS（2006）のウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果の記述に、「24 時間適用で「中等度（moderate）の刺激がみられた」、及び IUCLID（2000）のウサギを用いた OECD TG 404 に準拠した皮膚刺激性試験の結果の記述に「刺激性を示した」とあることから、4 時間適用試験結果ではないが中等度の刺激性を有するものと判断し、区分 2 とした。

- ・眼に対する重篤な損傷及び眼刺激性

RTECS (2006) のウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述に、「250 μ g 24 時間の適用で重度 (severe) の刺激がみられた」「1%溶液の適用で重度 (severe) の刺激がみられた」、及び IUCLID (2000) のウサギを用いた OECD TG 405 に準拠した眼刺激性試験の結果の記述に「刺激性を示した」とあることから、強い刺激性を有すると判断し、区分 2A とした。

- ・特定標的臓器毒性 (単回ばく露) (気道刺激性)

ICSC (J) (1997) に「気道を刺激する」との記載があることから、気道刺激性を有すると判断した。以上より、分類は区分 3 (気道刺激性) とした。

【注記】

なお、本物質としての情報はないが、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩[アルキル基の炭素数が 10 から 14 までのもの及びその混合物に限る]の情報では「症状として、錯乱、嘔吐、咽頭および口腔内疼痛、血圧低下の傾向が認められた。」(NITE 初期リスク評価書 No.5 (2005)) という報告がある。

オレンジ油

- ・呼吸器感作性

ヒトにおいて、オレンジ油への長期または反復ばく露による呼吸困難および胸苦しさなどの呼吸作用 (respiratory effects) (NICNAS (No.22, 2002)) がみられたことから、区分 1 とした。

- ・皮膚感作性

ヒトのパッチテストにおいて陽性データがあり (NICNAS (No.22, 2002))、モルモットを用いた試験 (Maximization test) (CICADs (No.5, 1998)) においても感作性が認められたことから、区分 1 とした。また、EU 分類において R43 (区分 1 相当) である (EU-Annex I, access on 7 2008)。

ダイズ油脂肪酸アミド DEA

- ・皮膚刺激性 区分 2

原料メーカーの記載を転載した。

- ・眼刺激性 区分 2A

原料メーカーの記載を転載した。

ラウレス硫酸 Na

- ・急性毒性 (経口) ラット LD50 = 1600 mg/kg

- ・皮膚腐食性及び皮膚刺激性

HSDB (2002) に、ヒトへの毒性影響として「長期間の職業接触による皮膚刺激、皮膚乾燥の報告がある」旨の記述と、動物について「モルモット、ウサギの皮膚に対し、エチレンオキシド鎖が短いものはより刺激性がある」旨の記述があることから、区分 2 とした。

なお、List3 の情報源に、ウサギを用いた 24 時間 Draize 試験で「severe」(RTECS (1997)) と「moderate」(RTECS (1999)) の記述がある。

- ・眼に対する重篤な損傷及び眼刺激性

List3 の情報源に、ウサギを用いた 24 時間 Draize 試験で「moderate」(RTECS (1997))、「severe」(RTECS (1999)) の記述がある。また、本物質は皮膚刺激性物質であることから、国連 GHS 改訂 2 版の図 3.3.1 に従って、区分 2 とした。

- ・特定標的臓器毒性（単回ばく露）（消化器系）
ヒトの急性毒性症状として「摂取により吐き気、嘔吐、下痢がみられる」（HSDB（2002））との記述より、区分2（消化器系）とした。
- ・誤えん有害性
ヒトへの影響として「吸引により上気道浮腫とかなりの呼吸困難を生じ得る」（HSDB（2002））との記述より、区分1とした。

デセス-5

- ・眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性
原料メーカーの記載を転載した。

12. 環境影響情報

製品の環境影響情報

- ・生体毒性
情報なし
- ・残留性・分解性
情報なし
- ・生体蓄積性
情報なし
- ・土壤中の移動性
情報なし
- ・オゾン層への有害性
情報なし
- ・その他
通常の使用では生体上の影響は知られていない。

成分の環境影響情報

ドデシルベンゼンスルホン酸 Na

- ・水生環境有害性（急性）
藍藻類（ミクロシステイス）96時間 EC50=0.9mg/L

オレンジ油

- ・水生環境有害性（急性）
甲殻類（オオミジンコ）48時間 EC50 = 0.70 mg/L
- ・水生環境有害性（長期間）
急性毒性区分1、急速分解性である（BODによる分解度：41、81、98%、GC測定による分解度：100%（既存点検、1980））が、生物蓄積性があると推定される（log Kow=4.83（>4.0、NICNAS, 2002））ことから、区分1とした。

ダイズ油脂肪酸アミド DEA

- ・水生環境有害性（急性）
- ・水生環境有害性（長期間）
原料メーカーの記載を転載した。

ラウレス硫酸 Na

- ・水生環境有害性（急性）
甲殻類（ネコゼミジンコ属の一種）48 時間 EC50 = 3.12mg/L
- ・水生環境有害性（長期間）
急性毒性区分 2 であり、急速分解性に関するデータがなく、区分 2 とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・廃棄においては、関連法規則ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、又は地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
- ・下水道に流してはいけない。

汚染容器及び包装

- ・容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治団体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

該当事項無し。

15. 適応法令

安衛法

- ・名称公表化学物質（木質、オレンジ油）

化管法

- ・第一種（ドデシルベンゼンスルホン酸 Na、ダイズ油脂肪酸アミドDEA、ラウレス硫酸 Na、デセス-5）

化審法

- ・優先評価化学物質（ドデシルベンゼンスルホン酸 Na、ダイズ油脂肪酸アミドDEA、ラウレス硫酸 Na、デセス-5）
- ・既存化学物質（ドデシルベンゼンスルホン酸 Na、オレンジ油、ダイズ油脂肪酸アミドDEA、デセス-5）

消防法

- ・第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体（オレンジ油）

水質汚濁防止法（ドデシルベンゼンスルホン酸 Na）

上記の適応法令は原料の適応法令であり、製品自体の適応法令ではない。

（製品は液体でないため、消防法は適応されない）

16. その他の情報

○参考文献

- ・製造元メーカー提供資料
- ・NITE GHS 分類結果一覧等

○その他

- ・4～8 並びに 10～12 の項目のデータの一部は、使用目的は使用方法についての情報だけでなく、事故や不測の事態の場合の重要な事について記載していますが、危険性や項目に該当しない使用法による瑕疵は、その責を負いかねます。この情報は本製品を安全に使用する必要条件について述べており、弊社の知りえる範囲を基としています。このデータは、法的規制によって、製品の性質を明確に保証するものではありません。